

## 大会テーマ設定理由

### 2020 年度小学校学習指導要領全面実施への架け橋 —英語を使って自ら考え伝え合うことができる児童の育成—

#### ◆ 小学校外国語教育における課題

2020 年 4 月から、いよいよ小学校において新学習指導要領が全面実施され、3、4 年生では外国語活動が週 1 時間、5、6 年生では外国語が教科として週 2 時間実施されることになり、外国語活動および外国語に、これまでより多くの時間を使って指導が行われます。また、外国語の教科化に伴い、検定教科書が使用されることになり、数値による評価も実施されることとなります。新しい教科書をどのように使っていきべきか、また、どのように評価を行っていくかといった新しい課題もあります。そして、小学校での学びを、中学校・高等学校での外国語教育へどのようにつないでいくかといった小中高の接続もこれまで以上に大切になってきます。4 月からの新学習指導要領のスムーズな全面実施に向け、このような課題について私たちはしっかりと準備していくことが求められています。

#### ◆ 大会テーマの設定

そこで、山梨大会では、「2020 年度小学校学習指導要領全面実施への架け橋—英語を使って自ら考え伝え合うことができる児童の育成—」を大会テーマに設定しました。新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」を実現しながら、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の 3 つの資質・能力を育成することが求められています。外国語の知識や技能を練習することにとどまらず、それらをどのような場面・目的・状況で活用できるのかを深く考え、自分の気持ちや考えをしっかりと伝え合い、自ら学びに向かっていくことのできる子どもたちを育成したい、という私たちの願いを大会テーマとして設定し、研究校で協働しながら実践を深めることにしました。

#### ◆ 研究トピックについて

山梨大会では、授業づくりにおいて共通して考えたい 6 つの研究トピックを協働して深めつつ、研究トピックのいずれかに焦点を当てて公開授業を提案することになりました。1 つめは、目標を見据えた指導をどのように行うかです。小学校外国語活動と外国語を通し、育てたい児童の姿を地域や学校の中で共通イメージをもち、学年の中での年間指導目標、単元目標、授業目標をどう共有するかについて考えてきました。2 つめは、無理のないステップを踏んだ指導づくりをどのように行うかです。単元および授業のなかで、最終的に行う言語活動をイメージし、そこに至るまでの無理のないステップづくりについて、各校においてさまざまな工夫を試みてきました。3 つめは、英語を使った本物のやり取りを大切にしたい指導づくりです。教師と児童、児童同士が学んだ表現を使っていかに生きたやりとりができるかについて検討してきました。4 つめは、目的・場面・状況を意識した言語活動です。どのように言語活動をリアルなものとして実感させ、児童の思考・判断・表現力を高めることができるかを検討してきました。5 つめは、文字指導(読む・書く)をどのように行うかです。音声に十分慣れ親しんだ上で文字指導を行う丁寧な指導を検討してきました。6 つめは、パフォーマンス評価をどのように行うかです。聞くこと・話すことを中心とした言語活動を行いつつ、児童の学びをどのように評価すべきかといった課題について検討してきました。

山梨大会では、このようなテーマ及びトピックを中心としながら、大会参加者の方々と議論を深め、山梨大会での議論が 4 月からの学習指導要領全面実施の架け橋となることを心から願っています。

## 山梨大会テーマとトピックの関係イメージ

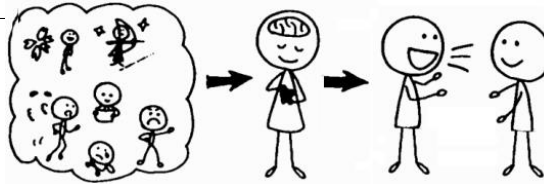
### ◆現状:2020年4月から

- 新学習指導要領の全面实施
- 外国語の教科化
- 検定教科書の使用
- 評価の実施
- 小中高の接続 ほか

### ◆新学習指導要領で示された キーワードおよび資質・能力

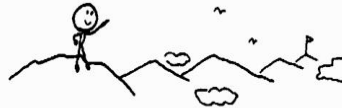
- 主体的・対話的で深い学び
- 知識・技能の習得
- 思考力・判断力・表現力等の育成
- 学びに向かう力の育成・人間性等の涵養

### ◆大会テーマ: 2020年度小学校学習指導要領全面实施への架け橋 英語を使って自ら考え伝え合うことができる児童の育成



### ◆授業づくりにおいて共通して考えたい6つの研究トピック

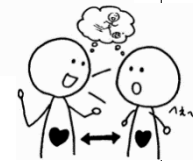
① 目標を見据えた指導



② 無理のないステップを踏んだ指導



③ 本物のやり取りを大切にした授業



④ 目的・場面・状況を意識した言語活動



⑤ 文字指導(読む・書く)のあり方



⑥ パフォーマンス評価のあり方

